

Title	柴田陽弘教授 略年譜・ 著作目録
Sub Title	Bibliographical resume list of publications of Professor Takahiro Shibata
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2006
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.91, No.2 (2006. 12) ,p.I- XI
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	Essays in Honour of Profrssor Takahiro Shibata
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00910002--003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

柴田陽弘教授
略年譜・著作目録

略年譜

学歴・教職歴

- 1942年3月21日生
- 1964年3月 慶應義塾大学文学部独文学専攻卒業
- 1972年3月 ドイツ・ミュンスター大学留学（1973年2月帰国）
- 1973年4月 慶應義塾大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程入学
- 1973年4月 尚美高等音楽学院（現尚美学園大学）非常勤講師（1974年3月まで）
- 1975年3月 慶應義塾大学大学院文学研究科独文学専攻修士課程修了
- 1975年4月 慶應義塾大学大学院文学研究科独文学専攻博士課程入学
- 1975年4月 慶應義塾大学工学部非常勤講師（1976年3月まで）
- 1976年4月 東京経済大学非常勤講師（1977年3月まで）
- 1977年4月 慶應義塾大学文学部助手（1984年3月まで）
- 1978年3月 慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学
- 1978年4月 武蔵大学非常勤講師（1979年3月まで）
- 1980年7月 ドイツ・アーヘン工科大学特別研究員（1981年9月まで）
- 1984年4月 慶應義塾大学文学部助教授（1989年3月まで）
- 1984年4月 東京経済大学非常勤講師（1989年3月まで）
- 1985年4月 東海大学非常勤講師（1989年3月まで）
- 1989年3月 ドイツ・ケルン大学特別研究員（1990年3月まで）
- 1989年4月 慶應義塾大学文学部教授（現在にいたる）
- 1990年4月 東京経済大学非常勤講師（現在にいたる）
- 1998年4月 明治学院大学非常勤講師（現在にいたる）

著作目録

(1) 著訳書

『風景の研究』(編著、慶應義塾大学出版会、2006年4月、292ページ。)

『恋の研究』(編著、慶應義塾大学出版会、2005年8月、347ページ。)

『文学の子どもたち』(編著、慶應義塾大学出版会、2004年2月、281ページ。)

『ミッキー・マウス デイズニーとドイツ』(カルステン・ラクヴァ、監訳、現代思潮新社、2002年12月、290ページ。)

『自然と文学 環境論の視座から』(編著、慶應義塾大学出版会、2001年10月、318ページ。)

『環境学事始め』(共著、慶應義塾大学出版会、1999年7月、200ページ。)

『ワイマール・エチュード』(H.パクター、共訳、みすず書房、1989年10月、418ページ。)

『ドイツ語 第四部』(共著、慶應義塾大学出版会、1988年3月、159ページ。)

『光芒の1920年代』(共著、朝日新聞社、1983年10月、二段組537ページ。)

『ドイツ映画の偉大な時代 ただひとたびの』(クルト・リース、共訳、フィルム・アート社、1981年7月、二段組510ページ。)

『ノヴァーリス全集』全3巻(ノヴァーリス、共訳、牧神社、1976年12月-1978年7月、1337ページ。)

『ノヴァーリスの「神」』(単著、以文社、1975年5月、159ページ。)

(2) 論文等

- 「偽オランダ人たちの江戸 シーボルトの巻 (その一)」(単著、「藝文研究」第90号、慶應義塾大学藝文学会、2006年6月、218 - 235 ページ。)
- 「風景論入門」(単著、『風景の研究』慶應義塾大学出版会、2006年4月、3 - 88 ページ。)
- 「恋の世界入門」(単著、『恋の研究』慶應義塾大学出版会、2005年8月、3 - 66 ページ。)
- 「ケンペルの旅」(単著、「藝文研究」第86号、慶應義塾大学藝文学会、2004年6月、99 - 108 ページ。)
- 「ケンペルの鎖国観」(単著、「藝文研究」第86号、慶應義塾大学藝文学会、2004年6月、271 - 289 ページ。)
- 「子どもの世界」(単著、『文学の子どもたち』慶應義塾大学出版会、2004年2月、7 - 68 ページ。)
- 「思想としての自然」(単著、『自然と文学』慶應義塾大学出版会、2001年10月、7 - 31 ページ。)
- 「崇高な山 ゲーテ鉱山学の位相」(単著、『ゲーテ年鑑』第41巻、日本ゲーテ協会、1999年10月、175 - 193 ページ。)
- 「文化の記憶 自然と文学」(単著、『環境学事始め』慶應義塾大学出版会、1999年7月、157 - 168 / 194 - 198 ページ。)
- 「化石の魔法都市 ゲーテとノヴァーリス (1)」(単著、「藝文研究」第69号、慶應義塾大学藝文学会、1995年12月、191 - 204 ページ。)
- 「A.G.ヴェルナーとその時代」(単著、「藝文研究」第67号、慶應義塾大学藝文学会、1994年3月、21 - 37 ページ。)
- 「安全ランプとガスマスク アレクサンダー・フォン・フンボルトの世界 (2)」(単著、「モルフォロギア」第15号、ナカニシヤ出版、1993年11月、二段組36 - 45 ページ。)
- 「ヴェルナー門の詩人たち」(単著、「藝文研究」第66号、慶應義塾大学

- 藝文学会、1993年7月、88－108ページ。)
- 「植とたがねの男 鉱山監督官アレクサンダー・フォン・フンボルト」
(単著、「藝文研究」第63号、慶應義塾大学藝文学会、1993年3月、
256－269ページ。)
- 「要素と形態 アレクサンダー・フォン・フンボルトの世界(1)」(単著、
「モルフォロギア」第14号、ナカニシヤ出版、1992年10月、二段組
30－45ページ。)
- 「アレクサンダー・フォン・フンボルトと自然 その<玄武岩論>をめぐ
って」(単著、「藝文研究」第60号、慶應義塾大学藝文学会、1992年
3月、90－100ページ。)
- 「清らかな泉 アレクサンダー・フォン・フンボルトとゲーテ(1)」(単
著、「モルフォロギア」第13号、1991年10月、二段組29－43ペー
ジ。)
- 「岩石の親和学 ヴェルナーの<発掘物の外的特徴>をめぐって」(単著、
『ゲーテ年鑑』第33巻、日本ゲーテ協会、1991年10月、161－184ペ
ージ。)
- 「神の器官 ノヴァーリスのヘムステルホイス研究」(単著、「藝文研究」
第59号、慶應義塾大学藝文学会、1991年3月、111－130ページ。)
- 「坑夫の言葉 <Glückauf>の文化史的側面」(単著、「藝文研究」第52号、
慶應義塾大学藝文学会、1988年1月、66－82ページ。)
- 「化石論の世界 ゲーテと化石たち」(単著、「藝文研究」第51号、慶應
義塾大学藝文学会、1987年7月、79－107ページ。)
- 「ゲーテと化石」(単著、「日吉紀要 ドイツ語学・ドイツ文学」第4号、
1987年3月、100－115ページ。)
- 「永遠の祭壇としての花崗岩 ゲーテの地球生成論」(単著、「モルフォロ
ギア」第8号、ナカニシヤ出版、1986年11月、二段組61－82ペー
ジ。)
- 「火山の海と熱い沈澱 ゲーテの玄武岩」(単著、「藝文研究」第49号、

- 慶應義塾大学藝文学会、1986年7月、57－72ページ。)
- 「ポッツオーリの貝 ゲーテの海」(単著、「藝文研究」第48号、慶應義塾大学藝文学会、1986年3月、72－89ページ。)
- 「ゲーテの鉱脈論 十八世紀鉱脈論の諸相」(単著、『ゲーテ年鑑』第27巻、日本ゲーテ協会、1985年7月、129－148ページ。)
- 「坑夫は乏しい糧を坑内にもとめ ゲーテとイルメナウ鉱山」(単著、「藝文研究」第46号、慶應義塾大学藝文学会、1984年12月、103－130ページ。)
- 「<魂の座> ノヴァーリスとカント」(単著、「哲学」第77集、慶應義塾大学三田哲学会、1984年12月、27－54ページ。)
- 「語れ石よ ゲーテと岩石界」(単著、「モルフォロギア」第6号、ナカニシヤ出版、1984年11月、二段組66－88ページ。)
- 「ゲーテと石の王国 ゲーテの地質学」(単著、「モルフォロギア」第5号、ナカニシヤ出版、1983年11月、二段組30－51ページ。)
- 「フリッツ・ラング」(単著、『光芒の1920年代』朝日新聞社、1983年10月、二段組60－72ページ。)
- 「美しい^ま鉱山 ノヴァーリスと鉱山」(単著、「藝文研究」第43号、慶應義塾大学藝文学会、1982年12月、277－297ページ。)
- 「フリッツ・ラング 無声映画に君臨した映像の魔術師」(単著、「朝日ジャーナル」24巻3号、朝日新聞社、1982年1月、二段組86－91ページ。)
- 「ノヴァーリスと数学」(単著、「ドイツ文学」第63号、日本独文学会、1979年10月、62－71ページ。)
- 「総合としてのカオス ノヴァーリスのなかの哲学者」(単著、「理想」8月号、理想社、1975年、二段組73－84ページ。)

(3) その他

1 書評、小論文（エッセイ）、論文翻訳等

「ゲーテと銀杏」（エッセイ、「三田評論」第1095号、慶應義塾、2006年11月、66ページ。）

「凡庸なる悪、あるいは卑近なる善」（書評、「三田文学」第86号、三田文学会、2006年8月、三段組216－217ページ。）

「ケンペルの恋歌」（小論文、「埠頭」第48号、横浜慶友会、2006年7月、15－24ページ。）

「春よこい」（エッセイ、「三色旗」第696号、慶應義塾通信教育部、2006年3月、1ページ。）

「わたしの独り言 スレスレ」（評論、「三田文学」第80号、三田文学会、2005年2月、274－277ページ。）

「恋の夏」（エッセイ、「三色旗」第692号、慶應義塾通信教育部、2005年11月、二段組24－25ページ。）

「恋の研究」（エッセイ、「三田評論」第1084号、慶應義塾、2005年11月、三段組65ページ。）

「進路を決めた1冊」（エッセイ、「三色旗」第683号、慶應義塾通信教育部、2005年2月、18－19ページ。）

「文学の子どもたち」（エッセイ、「三田評論」第1067号、慶應義塾、2004年4月、三段組86ページ。）

「子ども論への招待」（評論、「三色旗」第670号、慶應義塾通信教育部、2004年1月、2－4ページ。）

「新著紹介 ミッキー・マウス ディズニーとドイツ」（エッセイ、「三色旗」第663号、慶應義塾通信教育部、2003年6月、三段組33ページ。）

「沖縄のドイツ村」（エッセイ、「Berichte」第44号、日本ゲーテ協会、2003年5月、44－46ページ。）

「執筆ノート 自然と文学 環境論の視座から」（エッセイ、「三田評論」

- 第 1043 号、慶應義塾、2002 年 2 月、100 ページ。)
- 「新著紹介 自然と文学 環境論の視座から」(エッセイ、「三色旗」第 645 号、慶應義塾通信教育部、2001 年 12 月、44 ページ。)
- 「賢い選択」(エッセイ、「三色旗」第 644 号、慶應義塾通信教育部、2001 年 11 月、47 - 48 ページ。)
- 「魂の暗殺者 ナチズムの記憶をめぐって」(書評、「三田文学」第 61 号、三田文学会、2000 年 5 月、213 - 216 ページ。)
- 「日本論さまざま」(エッセイ、「三色旗」第 625 号、慶應義塾通信教育部、2000 年 4 月、46 ページ。)
- 「ぶどう球菌は怒った」(評論、「三田文学」第 60 号、三田文学会、2000 年 2 月、207 - 208 ページ。)
- 「中井章子『ノヴァーリスと自然神秘思想』」(書評、「ドイツ文学」103 号、日本独文学会、1999 年 10 月、170 - 172 ページ。)
- 「剃髪のこと」(エッセイ、「三色旗」第 615 号、慶應義塾通信教育部、1999 年 6 月、1 ページ。)
- 「イザロンの夜」(エッセイ、「三田文学」第 57 号、三田文学会、1999 年 5 月、67 - 69 ページ。)
- 「教員紹介 柴田陽弘」(エッセイ、「三色旗」第 609 号、慶應義塾通信教育部、1998 年 12 月、28 ページ。)
- 「食卓のゲーテ」(エッセイ、「Berichte」第 38 号、日本ゲーテ協会、1997 年 5 月)
- 「メディアの原点」(エッセイ、慶應義塾大学新聞「慶應通信」第 579 号、1996 年 6 月)
- 「自然哲学研究の新紀元」(書評、日本シェリング協会「シェリング年報」第 3 号、1995 年 7 月、三段組 117 - 119 ページ。)
- 「小特集 博物誌の現在 リンネを中心に」(書評、「日本 18 世紀学会年報」、日本 18 世紀学会、1995 年 7 月、70 - 71 ページ。)
- 「不透明な世界 伊井直行『進化の時計』」(書評、「三田文学」第 36 号、

- 三田文学会、1994年2月、198 - 199 ページ。)
- 「めし」(エッセイ、慶應義塾大学「大学生生活懇談会記録」、1993年9月)
- 「コードとしての影絵」(エッセイ、慶應義塾大学「塾」第166号、1991年4月)
- 「図説 死の文化史」(エッセイ、慶應義塾大学新聞「慶應キャンパス」第272号、1990年8月)
- 「龍の話」(エッセイ、「Flügel」第15号、慶應義塾大学独文学会、1989年11月、102 - 103 ページ。)
- 「白夜の肖像」(書評、「三田文学」第17号、三田文学会、1989年、二段組229 - 233 ページ。)
- 「レーオンハルト氏への手紙」(ゲーテ論文翻訳、「モルフォロギア」第10号、ナカニシヤ出版、1988年12月、二段組115 - 119 ページ。)
- 「花崗岩の節理運動」(ゲーテ論文翻訳、「モルフォロギア」第10号、ナカニシヤ出版、1988年12月、二段組119 - 123 ページ。)
- 「ゲーテは泳げたか」(エッセイ、「Berichte」第29号、日本ゲーテ協会、1988年5月)
- 「ウィーンと菓子と」(エッセイ、第19回NHK交響楽団室内楽演奏会パンフレット、1988年4月)
- 「十八世紀のヨーロッパ 文学と風俗」(鼎談、「三田評論」第882号、慶應義塾、1987年6月、三段組68 - 81 ページ。)
- 「Numerus clausus」(エッセイ、「三色旗」第477号、慶應義塾通信教育部、1987年12月、35 ページ。)
- 「浮き彫りにされた通信教育生像/座談会」(エッセイ、慶應義塾大学新聞「慶應通信」第475号、1987年10月)
- 「学生部からの手紙/三吉慶子氏の〈生活と意見〉」(エッセイ、慶應義塾大学新聞「慶應通信」第473号、1987年8月)
- 「1986年を振り返って」(エッセイ、慶應義塾大学新聞「通信教育」第465号、1986年12月)

- 「アンケート・通信教育学生の生活と意見をもとめて」(エッセイ、慶應義塾大学新聞「慶應通信」第464号、1986年11月)
- 「通信教育学生のく生活と意見」をもとめて」(エッセイ、慶應義塾大学新聞「慶應通信」第463号、1986年10月)
- 「蓼科高原の白い雲」(エッセイ、慶應義塾大学新聞「慶應通信」第462号、1986年9月)
- 「自然の死」(書評、慶應義塾大学「パピルス」第26号、1986年6月)
- 「外国語と私 研究と差別」(エッセイ、「三色旗」第459号、慶應義塾通信教育部、1986年6月、19-20ページ。)
- 「自然という書物」(エッセイ、「三色旗」第456号、慶應義塾通信教育部、1986年3月)
- 「情報化社会の通信教育」(エッセイ、「三色旗」第439号、慶應義塾通信教育部、1984年10月、32ページ。)
- 「ベルリンの貧民」(エッセイ、「慶應義塾大学報」第18巻第1号、1983年4月)
- 「アーヘン寧日」(エッセイ、「三色旗」第407号、慶應義塾通信教育部、1982年2月、二段組7ページ。)
- 「カバレット」(エッセイ、「三田評論」第821号、慶應義塾、1982年1月、23ページ。)